

社会福祉法人梓友会法人本部

令和 6 年度 事業報告

令和6年度 事業計画	進捗状況
1. 継続可能な法人経営を目指して (1) 各拠点施設の適正な数値目標管理 (2) 法人マネジメントの徹底 (3) 有事に備えた事業継続計画（BCP）訓練の実施と修正推進	<ul style="list-style-type: none"> ・月次経営調整会議を通じて、数値目標の意識付けや、数値目標達成に向けた課題抽出並びにその対応策に取り組んだが、特養部門は梓の里、みくらの里で数値目標を大きく下回った。一方、ショートステイ部門は特養の退所者をロングショートからの特養入所対応で影響を受け、目標値に未達となった。 ・毎月の施設長会議・経営調整会議、年2回（5月、10月）にマネジメントレビューを開催し、実績管理や評価不適合管理を行い、品質管理の維持強化を図った。また、JICQA 更新審査（11/27～11/29）における ISO 規格の更新継続を行った。 ・事業継続計画（BCP）については、4 月以降は BCP 訓練、研修会を実施し、より実践的な事業継続計画（BCP）に更新するよう各施設で対応を行った。
2. コンプライアンス経営の徹底と不適切事案及び事故防止 (1) コンプライアンス経営の推進 (2) 不適切事案・事例検討含む研修の実施、設備環境の検討 (3) 介護の質の確保及び職員の負担軽減	<ul style="list-style-type: none"> ・会計監査人による計2回の会計監査、会計顧問事務所による計14回の月次監査、監事による計2回の監事監査を通じて、法人の適性運営、会計法規の順守徹底を行った。 ・各施設で高齢者虐待防止のための指針を作成し、虐待防止のための委員会を設置し、不適切事案を防止するための研修を行った。また、職員の負担軽減のため動画研修を導入し、介護の質確保と経費節減のため、動画研修媒体を変更する施設もあった。
3. 人材確保対策の強化と職場環境の充実を図る経営 (1) 人材確保に向けたチャネル整理 (2) 技能実習生の安定雇用 (3) ICT 機器の有効活用	<ul style="list-style-type: none"> ・介護人材確保が困難になっていることから、採用業務の一部を業者に委託し、人材確保対策を強化した。 ・令和 6 年 9 月には特定技能実習生 4 名を受け入れた。また、技能実習生 1 期生 1 名が介護福祉士を取得し、リーダーとして、活動を開始した。 ・HP の見直しと委託業者による自法人 HP の更新を行った。また、セキュリティ強化も併せて行った。今後も HP の随時更新を図り、県外からの Uターン、Iターン、移住者の採用強化を継続する。

社会福祉法人梓友会法人本部 令和6年度 事業報告書

1. 理事会及び評議員会開催状況並びに承認事項

令和6年5月30日 第1回理事会

開催場所：介護老人福祉施設みくらの里

出席：理事5名、監事2名

承認事項：・令和5年度事業報告

- ・令和5年度決算報告及び監事監査報告
- ・令和6年度第1回定時評議員会決議事項
- ・給与規定の一部改定
- ・個人情報取扱規程の全面改訂

報告事項：・理事長職務執行状況の報告

- ・令和5年度理事長専決事項報告
- ・特別養護老人ホーム梓の里における死亡事故報告

令和6年6月14日 令和6年度 定時評議員会

開催場所：下田東急ホテル（リモート併用）

出席：評議員7名、理事2名、監事2名、会計監査人1名

承認事項：・令和5年度決算報告及び監事監査報告

- ・理事・監事の選任

報告事項：・令和5年度事業報告

- ・特別養護老人ホーム梓の里における死亡事故報告

令和6年7月30日 第2回理事会

開催場所：書面による決議の省略

出席：—

承認事項：・介護老人福祉施設等運営規程の一部改正

令和6年12月9日 第3回理事会

開催場所：介護老人福祉施設みくらの里

出席：理事6名、監事2名

承認事項：・令和6年度第一次補正予算

- ・みなとの園運営規程の一部改定

報告事項：・期中監事監査実施結果の報告

- ・理事長職務執行状況の報告

令和7年3月25日 第4回理事会

開催場所：介護老人福祉施設みくらの里

出席：理事6名、監事2名

承認事項：・令和6年度最終補正予算

- ・令和7年度事業計画
- ・令和7年度当初予算
- ・施設長の選任
- ・就業規則等の一部改定
- ・経理規程の一部改定
- ・社会福祉法人梓友会内部管理体制基本方針の制定

報告事項：・理事長職務執行状況の報告

2. ISOの推進

5月～10月 内部監査計画に基づき内部監査を実施

11/27～29 第7回更新審査（審査員：日本検査F1-I1津島・長谷部・関審査員）

3. 施設長会議、マネジメントレビュー

毎月中旬開催（年間 12 回）

議 題 理事長指示事項、数値目標達成状況、運営状況（職員配置、利用者状況等）、
評価・不適合報告、部門目標達成状況報告他

マネジメントレビュー（外部・内部要因の変化、取り組み状況、評価不適合）

・ 5月 10 日 令和5年度総括

・ 11月 22 日 令和6年度前期総括

4. 経営調整会議

毎月中旬に開催（年間 12 回）

議 題 月次予算実績対比表の報告と分析

5. 会計監査人監査

米田光一朗会計監査人による会計監査を計 2 回実施

5月 20, 21 日 令和5年 10 月～令和 6 年 3 月会計データ分
（決算に係る会計監査含む）

12月 9 日 令和6年 4 月～9 月会計データ分

6. 監事監査

佐野監事、外岡監事（5/27）、吉澤監事（11/20）による監査を計 2 回実施

5月 27 日 決算監査（事業報告、計算関係書類、財産目録に関する監査）

11月 20 日 期中監査（理事の業務執行状況、施設運営状況、財産状況に関する監査）

7. 月次会計監査

会計顧問事務所（イワサキ経営 戸部様）による会計監査を計 12 回実施

4月 2 日 令和6年 2 月会計データ分

5月 2 日 令和6年 3 月会計データ分

5月 13 日 令和5年度決算に係る監査

6月 4 日 令和6年 4 月会計データ分

7月 5 日 令和6年 5 月会計データ分

8月 9 日 令和6年 6 月会計データ分

9月 3 日 令和6年 7 月会計データ分

9月 27 日 令和6年 8 月会計データ分

10月 30 日 令和6年 9 月会計データ分

11月 26 日 令和6年 10 月会計データ分

12月 27 日 令和6年 11 月会計データ分

1月 30 日 令和6年 12 月会計データ分

2月 27 日 令和7年 1 月会計データ分

3月 28 日 令和7年 2 月会計データ分

8. 団体交渉・労使協議会の実施

5/22、6/17 第 1 回団体交渉・労使協議会 夏季一時金(1.8 ヲ月)

10/22、11/26 第 2 回団体交渉・労使協議会 冬季一時金(1.8 ヲ月)

2/25、3/18 第 3 回団体交渉・労使協議会 定期昇給(2 号俸)

9. 福祉関係団体の各種セミナー参加

全国社会福祉施設経営者協議会、全国社会福祉協議会、社会福祉懇談会、
全国老人福祉施設協議会、東京経営者協会、日本介護経営学会、日本老年社会学会、
青年福祉施設経営研究会、つしま医療福祉研究財団、医療介護福祉政策研究フォーラム、
介護人材政策研究会

10. 静岡県社会福祉法人経営者協議会 東部地区経営協 事務局の運営

7/10 総会

会 場：沼津 プラサヴェルデ

参加者：47 名

合同研修会

会 場：沼津 プラサヴェルデ

参加者：90 名

演 題：『社会福祉法人の今後の経営課題』

講 師：淑徳大学総合福祉学部 教授

結城 康博 氏

3/12 事務研修会

会 場：沼津 プラサヴェルデ

参加者：67 名

演 題：『弁護士解説！ ～事例で学ぶ～ 介護・障がい・幼保事業者が
知っておくべきカスタマーハラスメント対応 3 つのポイント』

講 師：弁護士法人かなめ 代表社員 弁護士

畑山 浩俊 氏

3/3 静岡県福祉職合同入職式

会 場：沼津 プラサヴェルデ

参加者：東部地区の福祉職新規採用者（新卒者）30 名

当法人から技能実習生 2 名参加

令和6年度 人材開発室 教育研修等実績報告書

	内 容	詳 細
新 任 職 員 研 修	① 新任職員オリエンテーション (新卒、中途)	新卒4月1日 1名 中途5月22日、10月25日、 2月28日(3回)
	② スキルチェック	各施設にて実施
資 格 取 得 支 援	① 介護福祉士受験対策講座による資格取得の支援	模 試：11月7日実施
	② 介護実務者研修 スクーリング(協力事業)	日 程：令和6年9月14日(土)～ 11月10日(日) 協力校：専門学校ユマニテク医療福祉大学校
地 域 福 祉 活 動 他	令和6年度は依頼なし	

企業主導型保育事業 みくら保育園

令和 6 年度 事業報告

令和 6 年度 事業計画	進捗状況
1.持続可能な法人経営を目指して <ul style="list-style-type: none"> 職員のお子さんを対象にした職員枠と地域の保育ニーズに対応する地域枠をバランスよく組み合わせ、保育事業単体として適切な収支バランスを取り、財務力強化に努める。 具体的には、地域の教育、保育及び社会福祉ニーズに対応し財務強化を図るため、引き続き、連携推進加算の取得に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 下田市教育委員会から地域枠の待機児童の受け入れ要請もあり、職員枠の育休復帰と調整し、連携しながら定員に達した。職員人数と園児数の配置基準により、連携推進員の配置を満たさなく連携推進加算に取り組むことはできなかった。
2.コンプライアンス経営の徹底と不適切事案及び事故防止 <ul style="list-style-type: none"> 各種のマニュアルに基づき、適切な対応を行うことにより関係法令の遵守や事故防止に努める。引き続き、「感染症対応マニュアル」については、新型コロナウイルスをはじめとした様々な感染症リスクに対応出来るよう、必要な見直しを行う。 不適切な保育の未然防止や園内事故の予防対策として、「保育安全計画」やガイドライン、ヒヤリハット事例を収集し全職員で確認・検討を実施する。そのことにより、職員の意識の向上強化し、安心・安全な保育サービスを提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> 各種のマニュアルについて見直しや変更等の際は、職員間で共有し改善していった。基本的な感染症対策は日々取り組み、感染拡大防止の設置に努めた。 全職員でヒヤリハットを確認し職員会議等にて検討し改善していった。保育所等における不適切事案を踏まえた対策としてガイドラインを策定し、未然防止できる環境・体制づくりを進めていった。
3.人材確保対策の強化と職場環境の充実を図る経営 <ul style="list-style-type: none"> 育休中の職員の職場復帰ニーズに対応し、職員が安心して、従前の仕事に復帰できる環境づくりを行う。 みくら保育園の特徴である「“こころ”と“からだ”と“あたま”を育てる」を総合的に提供されるように創意工夫をして取り組む。「英語教育」「ミッケルアート」の更なる活用を進め、知育への取り組みを推進する。 児童育成協会主催の「施設長等研修」及び「保育安全研修」を年 1 回受講し、行政主催のアレルギー対策及び感染症予防対策等の研修会を受講し、保育士の資質の向上を意識し、業務に必要な知識や技術を習得し専門性を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> みくら保育園の利用者 14 名のうち、育児休業から職場復帰したことによる利用者数は、3 名となった。 多世代交流は、小規模交流により実施できた。園外保育を積極的に取り組み地域交流を実施した。「ミッケルアート」は毎月、行事や保育内容に合わせたアートをリクエストし活用した。講師を招いて英語教育を実施した。英語での絵本の読み聞かせや絵カードなど英語に触れられる環境を整えた。今後も講師を招いて知育教育、英語教育を提供する。 全職員が研修に参加できるように配慮し研修内容については、職員会議等でフィードバックを実施した。

特別養護老人ホーム 梓の里

令和 6 年度 事業報告

運営目標	進捗状況報告
1.持続可能な法人経営を目指して	<p>① 法人後見事業の推進 静岡県社会福祉協議会主催の「持続可能な権利擁護支援モデル事業」に参画し、法人後見事業受託への体制整備について以下のとおりとなる。</p> <p>10/2 静岡家庭裁判所下田支部から審判選任の通知あり 11/7 静岡家庭裁判所下田支部から成年後見人許可の通知があり、法人後見事業が開始された。</p> <p>② 災害対応 自然災害対策について、11/25 に土砂災害による垂直避難訓練を実施し、下田市防災課へ報告書を提出した。</p> <p>静岡 DWAT への登録については、ベテラン・中堅職員 2 名の登録を行っており、本年度は若手職員 1 名を静岡 DWAT 研修に参加させた。</p>
2.コンプライアンス経営の徹底と不適切事案及び事故防止	<p>① 中堅職員の育成 福祉の本懐を忘れず、困難な状況の中であってもサービスの質を担保するため、本年度は認知症実践者研修に 6 名の中堅・若手介護職員を派遣した。</p> <p>また、中堅職員の内部研修として、接遇・食事・排せつ・褥瘡・入浴の各分野についての研修会を行った。</p> <p>② 不適切事案と重大事故の再発防止 令和 5 年度に起きた重篤な事案が再発することのないよう、その防止のために人検知機能付きカメラを設置し、ヒヤリハット事故等の事象解析を行うことにより、注意・事故・重大事故を減少させることができた。</p> <p>また、再発防止策として、介護職員のスキルチェックとフィードバックを 2 回と面談を実施した。</p>
3.人材確保対策と職場環境の充実に努める経営	<p>① 労務管理の適正化 前年度実施した業務日課の見直しとともに、本年度は、入所者の数と職員の配置状況に応じて、1 階と 2 階の運営管理から適切な人材配置等を考慮し、2 階だけの運営管理とし、適切な労働環境に努めた。</p> <p>② ICT の推進 介護 ICT 導入ガイドラインを参考とし、自法人他施設での ICT 推進事業での活用事例を参考に介護ロボット Hug 2 台を静岡県補助金制度を活用して介護現場に導入することにより、利用者の残存能力の維持、職員の身体的負担の改善を推進した。</p> <p>本年度より開始した ICT 看取り診断は、6/6 から 2/27 までに 6 例リモート診断を行った。</p>

特別養護老人ホームみなとの園
令和6年度 事業報告

令和6年度 事業計画	進 捗 状 況
1. 持続可能な法人経営を目指して (1)稼働率の安定化	<ul style="list-style-type: none"> ・特養の稼働率は99.2%で目標達成、短期の稼働率は78%で目標達成できませんでした。また、認知症自立度は、Ⅲ以上が85.7%から94.7%で推移し、65%以上の目標を達成した。
(2)持続可能な運営体制	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染、8/4 発症患者総数（利用者3人、職員4人罹患） ・自然災害 BCP7/1 見改訂 6/18,19 訓練実施 ・感染症 BCP12/1 改訂
(3)老朽化設備更新と経費削減	<ul style="list-style-type: none"> ・10/24～11/9 3階空調設備交換工事 9,350,000 円 ・2/12～2/28 2階空調設備交換工事 9,130,000 円 ・防災関連費用 1,210,000 円 ・リ-ダ-会議で水道光熱費について月別明細資料を通じ経費削減に努めるよう周知を図った。
(4)社会・地域貢献活動の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症カフェ(南伊豆町実施事業)を開催し地域の方々が集まり認知症相談や作品作り等を行い成果が得られた。又、短期入所、短期緊急受け入れで高評価。配食事業での訪問時1件の救急要請を行いご家族より感謝を得られた。
2.コンプライアンス経営の徹底と不適切事案及び事故防止 (1)不適切事案防止	<ul style="list-style-type: none"> ・年6回、定期的に事故防止及び身体拘束廃止委員会を開催し、資料等の回覧や不適切事案の再発防止を行った。
(2)法令順守	<ul style="list-style-type: none"> ・4/24,25に全職員に対して、令和6年度基本方針、法令遵守、権利擁護についての研修を行い知識向上に努めた。又、本年度も動画研修を継続し、受講しやすく、わかりやすいとの声も聞かれ好評であった。
3. 人材確保対策の強化と職場環境の充実を図る経営 (1)人材定着・取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・職員用コーヒーマシンを設置し、多数の職員から喜びの声が聞かれた。 ・入職時、OJT 指導を通じて習得するまで根気よく対応を行った。
(2)ICT 機器の更なる活用による労働環境改善	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT 機器（眠りスキャン、インカム、Hug、ナースコール、センサー付きベッド等）を使用し、使用状況は毎月開催されるユニットリーダー会議で報告した。

特別養護老人ホーム太陽の里
令和6年度 事業報告

運営目標	目標実現のための具体的方法
1. 持続可能な法人経営を目指して	<p>① 喀痰吸引・経管栄養（胃瘻）が必要なご利用者の受入れ体制の充実を維持する演習を3月に実施した。</p> <p>喀痰吸引ご利用者は随時にいるも、経管栄養ご利用者の受け入れはなかった。夜勤勤務するケアパートナー9名中、50時間終了者は7名。随時に取得目的で受講予定は継続。</p> <p>② 西伊豆町委託事業として「生きがいデイサービス」を週2回実施する事で、介護予防及び生活支援の一助となった。</p> <p>③ 特養 98.3%、短期 99.4%、通所 71.0%の実績となり、数値目標までは届かなかったが、ご利用者減少の中で、各居宅支援事業所と緊密な連携と、西伊豆町及び松崎町の利用者ニーズへの対応を積極的に行った結果となった。</p>
2. コンプライアンス経営の徹底と不適切事案及び事故防止	<p>① 自然災害及び感染症に対応する事業継続計画（BCP）研修を6月、11月に実施した。また、見直しを1回実施した。</p> <p>② コロナ感染症の発生はなかったが、12/16～インフルエンザAに特養ご利用者4名、ケアパートナー1名の感染はあったが大きく蔓延する事もなく、また、受け入れ制限する事もなく12/24に終息した。</p> <p>短期ご利用者の利用時は、感染症を持ち込まない事を徹底した事で発生予防ができた。</p> <p>③ 「不適切介護事案」に対処するため、介護の部門目標に掲げ1年間取り組むとともに、事故防止、身体拘束廃止及び高齢者虐待防止の研修を4月、8月、2月に実施した。</p>
3. 人材確保対策の強化と職場環境の充実を図る経営	<p>① 8/1～科学的介護情報システム（LIFE）を活用し、フィードバック情報による利用者状態やケアの変化の見直しにて質の高い介護に努めた。また、認知症理解のため外部、内部研修を8月、12月、2月に実施した。</p> <p>② ハラスメントを生まない職場環境づくりのため、外部、内部研修を5月、12月、3月に実施した。</p> <p>③ 厚生労働省が示している「生産性向上ガイドライン」に基づき、業務改善活動の体制構築に向けた取り組みのため、研修への参加や会議を開催した。令和7年度に「生産性向上推進体制加算」を算定予定とした。</p>

介護老人福祉施設みくらの里

令和 6 年度 事業報告

運 営 目 標	実 績
<p>1. 持続可能な法人運営を目指して</p> <p>(1) ICT ソリューションを活用したデジタル化の推進</p> <p>(2) 社会福祉法人としての公益性の重視</p> <p>(3) 経営規模の適正化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・令和 6 年 11 月より、科学的介護情報システム（LIFE）にてリニューアルおよびフィードバック機能の強化がなされた。ユニット会議にて検討を行い、記録システムに登録することで他職員間での情報共有につながった。 ・年間を通して地域のニーズに応えるよう努め、ショートステイにて年間で 73 件、デイサービスにて年間 22 件の新規契約を結ぶことができた。デイサービスにおいては人員不足が解消したため、新規契約の増加が見込まれる。 ・職員数の減少が見られているが、外国人職員の成長や介護補助を活用することなど勤務体制を工夫することで質の維持を図ることができた。
<p>2. コンプライアンス経営の徹底と不適切事案及び事故防止</p> <p>(1) 透明性の確保と情報の共有</p> <p>(2) 研修体制の整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・虐待防止委員会を設置し、危機管理についてさらに意識を高めることに努めた。また、転倒が連続して発生した際には、全体への掲示により周知を図り、研修を合わせて行うことで情報共有、透明性の確保を図った。 ・オンライン動画配信による研修システムを導入 ・研修計画をより実行しやすくなり、資料準備等、担当者にかかる負担を軽減することにもつながった。 ・職員の参加状況にばらつきがあるため、全員に満遍なく受講してもらえるよう研修システムの変更を次年度より行う。
<p>3. 人材確保対策の強化と職場環境の充実を図る経営</p> <p>(1) 外国人人材、新人職員の定着化</p> <p>(2) 業務全体の効率化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ミャンマーからの外国人人材は今年度 4 名増えたものの 2 名が退職となり、総勢で 12 名となった。専任の担当職員によるサポートを中心として、現場リーダーや送迎担当職員も含め、様々な人がかかわることにより円滑な勤務につなげている。先述の 4 名については、勤務半年で夜勤シフトに入ることができる見込みとなっている。 ・ユニットリーダー会議時にタブレットを持参することにより、会議の効率化と紙資源の節約につながった。また、外出用のタブレットを用意し、通院時の待ち時間等に業務を行うことで作業効率を改善することができた。

小規模多機能型居宅介護 みくらの里

令和6年度 事業報告

令和6年度 事業計画	進捗状況
1. 持続可能な法人経営を目指して (1) 持続可能な運営体制整備 (2) ICT 導入によるケアの質の向上 (3) 地域での相談拠点としての役割の遂行	<ul style="list-style-type: none"> ・R6.8.8 に発表された「南海トラフ臨時情報」を踏まえて、職員の少ない夜間に災害が発生した場合のシュミレーションを行い、「何をすべきか」「どうしたらいいか」を検討する機会を持てた。また、静岡 DWAT 研修参加職員と、防災研修参加職員を中心に R7.1.21 にも「今震度6の地震が起きたら」という想定でシュミレーションを行ったことで、現在の BCP の齟齬が見え、「実際にできること」「すべきこと」を再度見直していく必要に気づいた。 感染症については、R7.2 末に起こった感染症対応の振り返りを行うなかでゾーニングやエリア分けを根拠をもってしっかりとトリアージする判断力を養う研修が行えた。 それぞれの学びを、BCP の見直しに反映させ、より災害にも感染症にも強い施設を作っていく。 ・静岡県の ICT 化補助金を受け、介護記録の音声入力化とインカムの導入を行い、業務効率を著しく上げることができた。 ・より精度を上げるために更なる AI の学習も必要ではあるが、削減された時間で施設内の4Sを自ら行う職員も増え、波及効果として環境整備や使いやすさにもつながっている。 ・包括支援センターや地域住民の方の依頼を受け、地域における介護相談や出張講座を行うことができ、施設の活動を知っていただくことができた。
2. コンプライアンス経営の徹底と不適切事案及び事故防止 (1) 不適切対応防止強化 (2) 利用者の人権に配慮できる職員の育成、個別ケアの充実	<ul style="list-style-type: none"> ・有休の取得や意識的なノー残業デーの設定により、ワークライフバランスが保たれ精神的に安定した状態で業務にあたることができたことで、大きな事故につながることはなかった。 ・頭ではしてはいけないことだと理解していても、慣れ合いから「ちゃん呼称」する場面も見られ、また無意識にスピーチロックにつながる声掛けをしている人もおり、継続して注意していく必要を感じている。 ・何もしていないの方に対して興味を引き出しながらやりがいにつなげるアクティビティの提供がされるようになり、「その人」を知る活動として大きな成果が見られている。
3.人材確保対策の強化と職場環境の充実を図る経営 (1) 働きやすい職場環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・体調不良等による急な休みや勤務調整をグループ LINE を活用することでスムーズに行え、お互いに譲歩し助け合う環境に整ってきた。 ・誰か一人が無理をするのではなく、仲間に対して優しさを持つことで職場環境が良好で離職を抑えることができています。

介護老人福祉施設エクレス南伊豆
令和6年度 事業報告

令和6年度 事業報告	進 捗 状 況
<p>1. 持続可能な法人経営を目指して</p> <p>(1) 感染症対策と業務継続に向けた取組みの強化</p> <p>(2) 杉並区からの入居者に対する積極的なアプローチ</p> <p>(3) 地域との更なる連携の深化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は昨年度に引き続き、感染症および自然災害 BCP をそれぞれの委員会にて細部の改定並びに訓練を実施し、周知を図った。 ・区役所ロビーでの入居相談会を6回実施した。また、杉並区内の居宅ケアマネを対象としたバスツアーも1回開催した。あわせて、新たに区内有料老人ホーム内での出張相談会も開催し、杉並区民へ施設 PR を実施した。 ・地元高校からのインターンシップの受入れを行い、職場体験を通じて地元の介護人材の養成に寄与した。また、杉並区ボランティアセンターと協力し、杉並区民のボランティアによる慰問コンサートを開催した。
<p>2. コンプライアンス経営の徹底と不適切事案及び事故防止</p> <p>(1) 関係法令遵守への対応</p> <p>(2) 施設における事故防止の取組み</p> <p>(3) オンライン動画研修の活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度から該当する全ての職員にオンライン動画研修を導入し、倫理及び法令遵守に関する研修を実施した。 ・事故防止の為に委員会の定期開催、個別ケースの振り返りを行い、合わせてクッションフロア等の備品や夜勤時インカムの導入を検討し、事故防止と予防に努めた。(R7/4 導入済) ・各種の法定研修のみならず、各職種や職責に準じた研修内容を年間計画に基づき、職員各自が実施することが出来た。
<p>3. 人材確保対策の強化と職場環境の充実を図る経営</p> <p>(1) 業務・職場環境の改善および魅力ある職場づくり</p> <p>(2) ICT機器の活用を検討</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は新たな処遇改善加算を取得し、介護職員等の待遇改善に努めた。しかしながら、年度末時点で介護職員の増員にはなっておらず、引き続き、業務見直しや環境改善が必要である。 ・前述のとおり、夜勤時のインカム導入を進めることができた。あわせて、次年度においては眠り SCAN の全床導入に向けた検討を行った(令和7年度導入予定)